

知多地方の山車彫刻は、その多くが彫常一門によって彫られた。初代彫常(新美常次郎)は、明治9(1876)年半田村に生まれた。明治42年34歳の時、京都東本願寺の改築工事に同僚と共に参加した。その後、彼は独立して名古屋で初代彫常として店を構えた。数年後、彫常は半田の前明山(現半田市本町)に移り、彫師として活動を始めた。

明治38年 亀崎中切組の力神車おわたんまわりが旧大店坂で転覆、大破損した。この時、彫常は兄弟子の彫松とともに修理に当たり、立川流の彫刻に触れ強い影響を受けた。その後、多くの山車彫刻を手懸けるが、立川流の影響を受けたと思われる彫刻が多数ある。

初代彫常には、岩田冬根(岩田新之助)、二代目彫常(新美茂登司)など多数の門人がいて、各地方の社寺や山車彫刻を手懸けた。



乙川 南山八幡車“桃園の三傑、



乙川 西山神楽車“稲穂に鶴・天照大神・神馬・獅子神楽、



岩滑 西組御福車“七福神、



岩滑新田 平井組神明車“神武天皇蝦夷征伐、



岩滑新田 奥組旭車“天之岩戸、



上半田 北組唐子車“三韓征伐 宝物受取りの図、



板山 本板山組本子車“七福神、



板山 大湯組花王車“天之岩戸、